

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600179		
法人名	医療法人杏林会三股病院		
事業所名	グループホームみみつ2号館 (ユニット名:富士)		
所在地	宮崎県日向市美々津町2975番地		
自己評価作成日	令和3年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ご入居者中心の介護を常に心がけています。 ②ご入居者の意志を尊重した楽しい暮らしを支援します。 ③「我が家」として生活して頂けるような設計にし、リビングの一角にふれあいコーナーを設置。訪れてきて下さる方々との交流の場づくりを目指しています。 ④農園で四季折々の野菜をご入居者と一緒に育て収穫し調理します。 ⑤馴染みのある暮らしの継続を支援し、看取り介護にも力を入れています。 ⑥職員は、医療・福祉の有資格者であり、資格を有さない職員は認知症介護基礎研修を受講しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員が理解し、共通認識のもとで支援が行われるように各ユニットに掲げている。又、毎朝朝礼時に唱和を行い、職員の意識づけにもつなげている。新たな課題を見つけた時は、理念に立ち返るように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練時には近所の方のお庭をお借りしたり、庭の花が咲いた時には声をかけていただいている。又、民生委員様からも訓練後の講評をいただいております。顔馴染みの関係づくりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあり、感染防止の為に具体的な地域貢献は行えていない。地域の方に通所介護を利用して頂いたり、ボランティアの方の協力をいただき施設周辺の環境整備にも取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、運営推進会議委員の皆さまには文書にて、施設内の近況についてご報告をし、代替措置を継続している。また、頂いたご意見をサービスの向上へ繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連絡を密に取り、実情やサービスの取り組みをお伝えしながら、指導や助言をいただき、業務の向上や関係性づくりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を施設内で行い、全職員が参加する形で取り組んでいる。職員一人ひとりがご家族様から尋ねられた際に、自分の言葉で分かりやすく説明し、いつでも応対できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を行い、毎月開催される職員会議で日常のケアを振り返り、職員間で話し合いを重ねながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に、介護報酬改定についての勉強会や成年後見制度についての勉強会を開催し、職員全員で共有できるようにしている。現在、1名の方が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人やご家族様に重要事項説明書を用いて説明を行い、話し合いを重ねながらご理解と納得をして頂いた上で締結が行えるようにしている。電話でのご相談など柔軟に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には文書にて施設内の近況についてお知らせするとともに、電話連絡にてご要望やご意見を尋ね、運営に反映させている。入居者様には会話の中でご意見を伺い、職員で改善について話し合い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を行い、意見や提案を反映できる機会がある。又、朝礼や終礼の場で意見交換の機会を設け、職員が一人で考え込まずに皆で考え、取り組む機会づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の補助や昇給の制度も整っており、研修も充実している。職員一人ひとりが高い意識とやりがいをもち働けることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンラインを活用し、職員が希望する研修に参加したり、月2回以上の施設内での勉強会も開催しており、職員の知識や技術の向上、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への研修の参加や、同一法人であるグループホームとの情報交換を行いながら、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉に耳を傾け、手を擦ったり、椅子に腰かけての対話や一緒に過ごす時間を大事にしている。また、話の内容は日々の記録に記入し、ご本人の思いをいつでも職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から話を聞くだけではなく、ご本人の話しにも耳を傾け、その方らしく生活していただく為にはということ職員全員で考えながら、初期の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みをして頂いた時点での入居が難しい場合は、同事業所内の通所サービスなどの紹介も行っている。又、地域包括支援センターにも相談を行い、必要に応じて助言をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で調理や洗濯などの家事を共に行い、生活を共にして歩んでいるという関係性づくりを自然な形で築くことができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にある為、現在、病院受診は職員が付き添い介助を行っているが、普段はご家族様へ依頼し、職員が過度に介入しないように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の八百屋さんにて野菜の配達に来て頂いている。又、美容室の利用に関してはご本人やご家族様の希望に応じて来て頂き、パーマやカラーを希望される方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの方や気の合う方との交流がしやすいように座席の配置に配慮している。ご本人同士で声かけ合いや支え合いが自然な形で行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し契約が終了した方については、情報提供を行っている。入院先でもご本人が戸惑いが少なく安心して入院治療を勧められるように、習慣となっていたことやケアの工夫についても入院先機関に伝えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が生活の中でご本人の希望を伺ったり、表情や日常の行動からも意向の把握に努めている。意向の確認ができない場合は、ご家族様から聞き取り、職員間で情報共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や趣味、生きがいとしていたこと等の情報を共有し、日々の生活の中で生かせるよう、個別のファイルを作成しつつでも確認できるように情報の整理をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、気付いたことを日々の記録に記入したり、職員全員が把握できるように努めている。ご本人の自立支援について職員が生活を通して考えながら、共有し支援につなげるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と職員と一緒にモニタリングを行い、ご本人やご家族様、福祉用具を取り扱う会社等を含めご意見を頂き、計画や日々の支援へと反映することができている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の整備に努め、介護計画に沿った記録や情報の共有に努めている。記録の記入方法について統一化を図ったことで、実践へと結びつけることができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居男性が増加したことや、入居者様の重度化に応じてユニット内に男性職員が2名配属している。男性職員が増えたことで、ご家族様や入居者様より安心したとの言葉も頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にある為、地域の方や民生委員、ボランティアの方々に来て頂く機会が制限される中、園芸や草刈りなど屋外作業の協力を受け、地域のボランティアとの協力のもと、豊かな暮らしが行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の多くは入居前よりかかりつけ医としていたこともあり、病院や医師との関係性は築けている。また、適切な医療を受けられるよう、ご本人やご家族様が希望する医師による医療を受けられるよう相談に応じている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から看護職員への状態の報告や、入居者様個々の健康状態を観察する視点について看護職員より常に指導いただき、互いに協力し合いながらケアが滞らないよう連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供用紙を活用し情報の共有に努めている。又、コロナ禍である為、入院中は電話での相談連絡もこまめに行っている。退院時のカンファレンスには参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、ご本人やご家族様と話し合いの場を持ち、可能な限り希望に沿った支援ができるように努めている。また、看取りの段階によっても、ご家族様の揺れ動く心情に寄り添い、ご本人が望んでいたことや思いを振り返りながら、チームで支援できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や取り扱い、心肺蘇生法の訓練も勉強会の中で定期的開催している。また、急変時の連絡手段等についても、慌てずに行動できるよう貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、月1回話し合いの場を設けている。定期的な避難訓練を開催し、行政や地域との協力体制もとれている。アクションカードを作成し、実際に誰が見ても落ち着いた行動ができるよう示してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や勉強会の中で、認知症の方ではなく一人の人として尊厳の気持ちを持って接することの大切さを振り返る機会を設けている。排泄の声かけ等、さりげない言葉かけにも工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示が十分に行えない場合であっても、選択をして頂いたり、表情に表れるご本人の思いから汲み取るようにしている。また、誕生日の日にはご本人の好きな物を食事メニューの中に取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の健康状態やその日の気分状態を把握し、一日の流れをご本人の希望に沿って支援している。入浴についても、ご本人の意向を確認し、毎日入浴される方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びをして頂いたり、選ぶことが難しい方にはどちらがよいか服を2枚ほど提示して選んで頂いている。美容サービスを利用し、パーマやカラーを楽しむ方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗い等、ご本人の状態に合わせて職員と一緒にやっている。畑の野菜を収穫したり、四季と一緒に感じられるような取り組みを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、管理栄養士より月1回、栄養に関する助言を頂き、食事形態や栄養バランスの改善に努めている。助言をいただき、食事形態を変更したことで、栄養改善や体重増量につながった入居者様もいた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科衛生士より口腔ケアに関する助言を頂いている。歯ブラシ等も個々の状態に合わせて使い分けを行い、一人ひとりに応じた口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックして、職員間で情報の共有を行っている。介護量に関係なく、トイレで排泄してもらう取り組みや、可能な限り布パンツを使用し快適に過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に、食物繊維を多く含む食材を取り入れている。自然な便意につながるように、水分補給や、適度な運動を行ったり、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、予め日程表が決められているが、ご本人の希望に応じて入浴して頂いている。夜間の入浴は、見守りの都合上行えていないが、希望があれば行っていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後には、居室で過ごすことを好まれる方や、リビングソファに座りうたた寝をする方もいる。気の合う方との座席の配置にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が分薬、前日の夜勤者と日勤職員2名で確認している。薬の目的や副作用について、看護職員より説明を受けている。状態に変化がある際は、看護職員へ相談後、医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯、畑の野菜を収穫するなど、一人ひとりに楽しめることを職員と一緒にやっている。その他、海岸沿いへの散歩や月2回は行事を企画し、楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にある為、日常的な外出支援は行っていない。近くの神社や町並み、海岸沿いの散歩へ出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは職員が管理している。コロナ禍で買い物支援が行えていない為、職員がお菓子の嗜好品や生活に必要な物を、ご本人の希望に応じて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に会えない寂しさや愛しむ感情を汲み取り定期的に施設から電話をかけご家族様と話す時間を設けている。また、ビデオ通話も活用し、お互いの顔が見えることで安心感を図れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事係の職員を中心に、季節を感じる事ができるような壁面飾りを入居者様と一緒に作成し飾っている。また、リビングのテーブル上には季節の花々を生け、香りや美しさを言葉にして共感し合える自然な空間づくりができています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人一人ひとりの生活歴や性格を理解し、気の合う入居者様同士が気軽に会話できるよう座席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人とご家族様が写った写真や、メッセージ入りの手紙などを飾っている。自宅で生活していた頃に鯉を飼育していた方がおり、居室内でも飼育できる金魚を大切に育てている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が衣類を選ぶことができる入居者様のクローゼットにはご本人の背丈に合わせてハンガー掛けを用意したり、筆筒の引き出しにはラベルを貼り表示するなど、選択ができるように配慮している方もいる。		